…一日發行 大正九年九月二十六日印刷納本 (毎月一回一日發行) 明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

子青年界

七卷 十月號

目次

第十七巻 第十號

大正九年十月號

女子青年界目次

卷 號

婦人之友社の三大雑誌

「婦人之友」

毎月一回 一日發行

一冊金四十錢 郵稅一錢五厘

主幹 羽仁もと子

「まなびの友」

毎月一回 一日發行

一冊金廿五錢 郵稅一錢

主幹 羽仁もと子

「子供之友」

毎月一回 一日發行

一冊金廿五錢 郵稅五厘

主幹 羽仁もと子

東京雑司ヶ谷 婦人之友社 電話番町三六九八 振替東京一六〇〇

貴婦人紳士御愛用美髮料
ドクターペリース
一瓶

女子青年會
徽章
一個 貳拾錢 送料貳錢

FURS & MILLINERY

D. KOMEYA,

Prop. C. YAMAOKA

WHOLESALE and RETAIL

A Largest collection of Furs, Coats, Stoles, Muffs, Slippers, Brocade Linings & Feathers. Water Color Pictures.

FUR DEPT.
No. 3 & 4, Benten-dori, Itchome, Yokohama

PICTURE DEPT.
No. 14, Bentendori, Itchome, Yokohama

SUMMER BRANCH
Karuizawa, Shinshu

貴婦人令孃用

毛皮コート 襟巻 マフ スリッパー 羽毛
絹裏地 水彩畵類 其他毛皮製品種々

何れも最新流行形いろ〳〵取揃へてありますから多少にかゝわらず御用命の程御願上げます、又た御贈答品としては最も好適品であります、御注文も御好みに依り入念調製いたします。



横濱市辨天通一丁目三、四番地
コメヤ號 山岡商店
電話園三三七〇

東京市京橋區南金六町一番地
コメヤ號 山岡商店
電話銀座一〇二五

夏期出張所 信州輕井澤

一、銀器類
一、貴金屬寶石細工品一切
外國人交際用贈答用品充實完備
内地流行界より一歩づゝ先走つた品物のみ



○意匠、技巧優良
○價格低廉
○信用安全
○取引敏速

永年外國人向にて苦心の點品物に現はれて居る筈です態々横濱迄御用命の甲斐あると確信致します

横濱市辨天通一丁目拾貳番地

辨天商會

□なんぢ明日のことを誇るなかれ、そは一日の生ずる所の如何なるを知らざればなり。

女子青年界

第十七巻

第十號

□なんぢ明日のことを誇るなかれ そは一日の生ずる所の如何なるを知らざればなり。

□汝己の口をもて自ら讃る事なく、人をして己を讃めしめよ。自己の唇をもてせず、他人をして己をほめしめよ。

□石は重く、沙は輕からず、然ど愚なる者の怒は此二つよりも重し。怒は猛く憤恨は烈し、されど嫉妬の前にはたれか立つことを得ん。

□あからさまに譴むるは秘に愛するにまさる。愛する者の傷くるは眞實よりし、敵の接吻するは僞よりするなり。

——箴言 二十七章——

基督の律法

川尻正脩

「汝等彼此の勞を任へ斯して基督の律法を全すべし」（ガラテヤ書六ノ二）

基督の律法とは誠に珍らしい言葉であつて一見矛盾の感がある。誰しも基督教とは靈の宗教であつて儀文の宗教でない、生命の教であつて文字の教でない。救拯を説くものであつて律法を強ふるものではないと理解して居る。そしてこの靈、生命の最高顯現であり救拯を完ふしたるものは基督である、故に基督は救と自由を意味するものである。

然らば律法とは何か、靈は活かすが儀文は殺す、律法は我等を束縛し我等の生命を涸渇せしむるものである。普通に律法とはモーゼの律法であつてそれがユダヤ人の生活上に非常に重要な位置を占めて居た事は舊約書やユダヤ人の歴史又は今日まで續いて居る彼等の生活形式を見るとよく解る。試みに舊約書を開いて見るに、かの最も大なる誡として與へられたものを教へた後、次の如き注意が附加されて居る。「今日わが汝に命ずる是らの言は汝これを心にあらしめ勤めて汝の子等に教へ家に坐する時も路を歩む時も寢る時も起る時もこれを語るべし、汝またこれを汝の手に結びて號となし汝の目の間におきて誌となし、また汝の家の柱と汝の門に書記すべし」（申命記六ノ六ー九）これは律法を嚴守すべき注意の初めで實に用意周到なものである。其後これが益々複雜なものとなり、傳説が加はり、ラビの説明が加はつてそれ等が又律法と變らぬ重味を有するに至りユダヤ人は全く律法の捕虜の姿となつた。ギーセン大學の神學教授たるエミール、シユラー博士がキリスト時代のユダヤ人の歴史の殆ど完全な研究をなして居る

その中に律法の下に圍はれたユダヤ人の生活を委しく記して居る。殊に安息日など之を機械的に嚴守したものである。最初舊約聖書に記した規則は極く簡單なるのであつたのが後代になつていよ／＼やかま

しくなつた。この形式に捕はれた精神を失ひたるユダヤ人一般、殊にその指導者たるパリサイの徒と學者等の生活狀態は憂ふべきものであつた。馬太傳二十三章を開いて基督の「噫なんぢら禍なるかな僞善なる學

たものである。最初舊約聖書に記した規則は極く簡單なものであつたのが後代になつていよ〱やかましくなり、安息日（即ち土曜日）には殊更に禁ぜられた三十九箇條の事があつた。（一糸のもつれを解く事は出來ない、糸を結ぶ事も出來ない、二針と縫ふ事は出來ない、手紙は一通はいゝが二通は書いてはならぬ、火をともす事は出來ない、けす事も出來ない）等云ふのがある。勿論安息日には戰爭などは一切しなかつた。戰爭の最中でも劍を收めたのである。ローマの將軍ポンペイやタイタスの如きその虚に乘じて安息日に陷れたのであつた。其他へロデもトレミー、ラガスなどが城を陷れたのも安息日であつた。是等は要するにユダヤ人等が律法の儀文に囚はれ、その文字の示す所を嚴守せんとして非常識に走りそれらを守る事にのみ救があると思ふに至つた爲である。隨而內生活の改善、道德生活の向上などは彼等のさほど念とする處でなくなつてし

生活狀態は憂ふべきものであつた。馬太傳二十三章を開いて基督の「噫なんぢら禍なるかな僞善なる學者とパリサイの人よ」を繰り返されて居る個所を味讀すれば當時の一班が察せられると思ふ。

此律法に囚はれて枯渇したる人々を解き放つて生命に導き、靈に活かしめ、自由の天地の中に神の子等としての生活に入らしめた者は即ち耶穌基督である。ポーロは此間の消息を傳へて「活す靈の法はイエス、キリストに由て罪と死の法より我を釋せばなり」（ロマ八の二）と云ひ、又「イエス、キリスト我等を釋て自由を得させたり。是故に爾曹堅く立て、後び奴隷の軛に繫るゝ勿れ」（ガラテヤ五の一）と云つて居る。我等はクリスチャンとして此律法の束縛ポーロの所謂奴隷の軛より超越したる自由の人たる事を忘れてはならぬ。

然らば我等は全然律法なき者か、何等の標準なき

無法、破戒の民か、律法を蹂躙し無視するものであらうか。ポーロはコリント前書九の二十一に次の如く云つて居る。「律法なき者には我律法なき者の如くなれり、是律法なき者を得ん爲なり」と。此處に「律法なき者」と云へる言葉の原語は「無律法」「律法を無視する」と云ふ意味も含まれて居る爲め其誤解を來さん事を恐れてポーロは自己の立場を明かにせんとして語を繼いで「されど神に向つて律法なきに非ず即ちキリストの律法の下に在なり」と云つて居る。此處にもポーロは基督の律法と云ふ事を用ひて居るが恐らく新約書中この用語のあるは此處と本文に引用したガラテヤ書六章とだけであらう。如斯我等はキリストに在る時自由を得、軛を脱した者であるが決して不法無頼の徒ではない。此に於てかポーロは一見矛盾の如く見える用語を用ひて、我等はキリストの律法の下に在る者となしたのである。

然らば基督の律法とは何であるか。我等は先づ甚督自身の聖語を學び、その眞精神に觸れて後ポーロの説明を研究しやう。基督は傳道の當初その弟子等を中心として山上に教を垂れ給ふた時、今日我等がゴールドンルールとして奉じて居る言葉を發せられた「是故に凡て人に爲られんと欲ふ事は爾曹また人にも其如く爲よ」(マタイ七の十二)又その地上生活の終りに近づくに當り直參の弟子(ユダ既に去つて殘り十一人)に對して云はれた言葉は「われ新誡を爾曹に予ふ即ち爾曹相愛すべしとの是なり、我なんぢらを愛する如く爾曹も相愛すべし」(ヨハネ一三の三四)と。更に又傳道旅行の途中に彼が一人の教法師に舊約の最大誡をとり特に心を込めて教へられたものは「爾心を盡し精神を盡し意を盡し主たる爾の神を愛すべし」(マタイ二二の三七「己の如く爾の隣を愛すべし」(同上三九)との聖句であつた。しかも當時此の隣り人と云ふものゝ理解は一班の人々に甚だ曲解されて居た爲に、イエスはその山上の垂訓中に「爾の隣を愛みてその敵を嫉むべしと云へることとあるは爾曹が聞きし所なり、然も我なんぢらに告ん 爾曹の敵を愛み爾曹を

詛ふ者を祝し爾曹を憎む者を善遇し虐遇迫害もの〻爲に祈禱せよ」(マタイ五ノ四三—四四)と教へられた。斯く云ひて一般の人々が隣人と云へば唯自己を愛する者、友人、親戚の如き者と思つて居た狹隘な考をおし廣めて敵と思

も—その律法は自己一個を完全に法に繋いで方式にあてはめて生活する事であつた。しかし之は神と人との關係を完ふせよとの律法である。世にあつて案外困難な事は他人と仲好く暮らす事である。「Art of

の人々が隣人と云へば唯自己を愛する者友人、親戚の如き者と思つて居た狹隘な考をおし廣めて敵と思ふ者も凡て隣人であつて、若し我等の助けを要する者があればそれが富者たると貧者たると長幼、男女人種、階級の別なく凡ての者が我等の隣人であるとの敎を垂れ給ふたのである。此隣人の敎を具體的に明かにしたものはかの有名なルカ傳十章に記されて居る善きサマリヤ人の比喩である。

これ等の不朽の言葉の中に基督の律法が明示されその大精神が現はされて居る。即ち簡單にキリストの律法を云ひ表はせば、神と人々を愛する愛の精神より一切の助けを要する人々を我隣人として助けて奉仕の生活を爲すことこれである。

此の基督の律法を單なる文字として儀文として見る時、シナイ山上の律法よりも更に困難なる物である。モーゼの律法よりも更に至難峻嚴なものである

との關係を完ふせよとの律法である。世にあつて案外困難な事は他人と仲好く暮らす事である。「Art of living」と云ふ事は今日眞面目に考へられて居る處である。然し基督自身の律法、又ポーロが理解したキリストの律法は唯單に人々と圓滿な生活をなすのみではない。その重荷を助け、その敵たる關係にある者も助を求むる時は常に友情と愛の奉仕をなす。これは容易ならぬ事である。しかし我等は一見左程でもないと思ふモーゼの律法が至難でしかも我等を束縛し枯渴せしむるに反し、一見困難と見ゆる基督の律法が我等を自由にし、高め、感謝と喜びの情に充たしむる事實を見るのである。此のモーゼの律法とキリストの律法の差異何處にありやと云ふに一は單に冷やかなる命令である。他はその律法を完全する力が背後に控へて居る。一は單なる儀文である。他は愛のインスピレーションである。

この一見困難なる「キリストの律法の下に在り」（コリント前九の二一）と云ひ又「この基督の律法を完ふすべし」（ガラテヤ六の二）と云つたポーロ自身、幾多の困難に勝利を得たる自己の經驗を語つて「然れども我等を愛める者に賴すべて此等の事に勝得て餘あり」（ロマ八の三七）と云ひ、更に「我は我に力を與ふるキリストに因て諸の事を爲し得なり」（ピリピ四の一三）と叫んで居る。これは實驗の聲であつて愛の奇跡を示せるものである。一見至難の律法を、愛と力を與ふるキリストによつて完ふすると云へるポーロの言葉には動かす事の出來ぬ權威がある。「基督の愛われらを勵せり」（コリント後五の一四）とはポーロの實生活より出たる告白である。

この廣き深き「基督の律法」の意義、精神を背景として、前のポーロのガラテヤ書の言葉にかへつて其意味を學んで見たい。ポーロは此處に「なんぢら彼此の勞を任へ、斯してキリストの律法を全すべし」と云つて居る。換言すれば「基督の律法を完ふすることは即ち彼此の勞を任ふことなり」とも云へる。然らば此「彼此の勞を任ふ」てふ事の中に、前に學んだ基督の律法の完成があるとも云へる譯である。そして此簡單な言葉の中に我等人生生活上至大の教訓が含まれて居る譯である。

此處に少しく聖書の本文に隨つてその言葉の意味を學んで見度い。ポーロは第二節に「彼此の勞を任へ」と云ひ、少しく先に「人おのおの其荷を負べければ也」と記して居る。一は互にその勞を任へと云ひ、他には一人一人皆自分の荷を負はねばならぬと云つて居る。一寸理解し難い。日本語には一つの方を「勞」と譯し、他を「荷」と譯してある。古い英譯には兩方とも Burden と云ふ譯語が用ひてある。しかし「勞」と云ひ「荷」と云つても意味が判然しない。ポーロがガラテヤ人に書いた時には意味の異なる二つの希臘語を用ひた。バレーとフォルテヰオンである。荷と譯されたフォルテヰオンはその負ひ主

の力に相應した重荷の意で、その人一人の力で負へるものであるが、勞と譯されたベレーはその人の力に餘る重荷を意味すると或聖書學者は云つて居る。
…の意味を明かにして置きたいのは、

この意味を明白にするものはポーロが同じ書の五章の十三に云つて居る言葉である。「兄弟よ爾曹は召を蒙りて自由を得たる者たればなり。されどその自由を得るを機會として肉に循ふ勿れ。惟愛を以て互に事ふることを爲よ」即ち自由者

に餘る重荷を意味すると或聖書學者は云つて居る。
更にも一つ文字の意味を明かにして置きたいのは、「任へ」と譯された文字で、ボーロはバスタゼェテといふ字を用ひて居る。これは重荷を輕くする爲に力を添へてやる事、手をかす事、補助を與ふる事である。重荷を負ふて居る人の荷を全部取つて仕舞つて自分で任ひ、その人を遊惰ならしめるといふのではない。ボーロは前に云つた樣に皆分相應の荷は負ふべき者だと敎へて居る。又「任へ」とは唯一度手をかしてやるのではない。絶えず助を與ふるを意味する。しかも消極的に堪へ忍ぶのでなくこれを任ひ進むのである。積極的に勞を任ふて共同的に前進するのである。これが基督の律法である。前に云つた樣に我等はキリストにあつて自由となつたのであつて何も强制的にこれらの事をすべきではない。主の愛に感激して自由の意志を以て奉仕するのである。

りて自由を得たる者なればなり。されどその自由を得るを機會とし
て肉に循ふ勿れ。惟愛を以て互に事ふることを爲よ」即ち自由者
として愛の動機より助くる事をなし又事ふることを
する。これ我等の完ふすべき基督の律法である。
「互に事ふることをする」「彼此の勞を任ふ」
ふ事は現代の用語で言ひ表はせば之を Social servic
社會奉仕とでも云つたらいゝかも知れない。今日は
活動奉仕の時代で種々の形式に於て奉仕の實が現れ
て居る。ルカ傳十章の終りにマルタとマリアの二人
の姉妹の事が記してある。マリアは靜かで温順で
エスが家に入り給ふやその足下に座つてその御言
を聽いたとある。然しマルタは早速臺所に馳け込
で饗應の事に忙しく心亂るゝまでに働いたのであ
アメリカの有名なエヴアンゼリストはマリヤの樣
怠け者はいけない。現代はマルタを要する。今
婦人はマルタ式にならねばならぬと云つた。何處か

にマルタ會とかもあるさうである。兎に角これが一般社會の傾向かもしれない。「社會奉仕その文字は壯大で意味するところも立派である。唯餘り流行語となると却て意味が徹底しない事になる。組織的になり過ぎて精神を失ふ。我等の意味する社會奉仕の中には「愛を以て互に事ふる事を爲よ」「汝ら彼此の勞を任へ」と云ふ溫ひ個人的タッチがある。その精神の發露が「基督の律法」を全ふする事となるのである。故に人格的タッチ、愛の動機より出でたる奉仕でなければそれはクリスチャン、ソシアル、サルヴヰスではなくなる。隨つて社會事業であり救濟事業、社會改造運動ではあるが「基督の律法」を全ふする事ではない。メリーアウスチンと云ふ小説家が「The Man Jesus」と云ふ特色あるエス傳を書いて居る。その中にエスの敎訓と生活を總括して「to forgive, to love and to serve」として居るが誠に好く言ひ表して居る。實にイエスの一生を通じて實行された敎訓は「罪を赦し、人を愛し彼等に事ふる」の三つの中に盡されて居る。

「基督敎社會奉仕の任に當る我等の瞬時も忘れてならないものは宇宙の三大實在である。卽ち神と人と我との三者である。卽ち父なる神と自分と自分の隣人である。此三者の關係より道德問題宗敎問題が成立するのである。愛を以て此の三者の關係を結びつけ相調和せしむる所にキリストの律法の完成があり、これを相分離し反目せしむる時にその律法を破る事となるのである。神を愛する所に神との一致融合がある。人を愛するところに人との調和友情がある。愛に依つて結ばれた神人間の調和の妙境、これ卽ち天國である。我等クリスチャンが社會奉仕を口にする時に茫漠たる社會とか團體とか群衆とか人民とかと頭に映るのではない。神に對しては子供たるの關係を有し我等には兄弟たる一個一個の人格者としての隣人が映ずるのである。「汝等彼此の勞を任へ」「愛を以て事ふることを爲よ」此のポーロの言葉の中に我等の社會奉仕の原理が言ひ表はされて居る。

この個人の靈を重んずる事は基督敎の大なる特長の一つである。古代の歷史を繙いて希臘羅馬の社會狀態を考ふる時、當時個人の價値など殆んど念頭になかつた事を見る。國家あり或は市あるも個人はそれ

故に一切他に賴らぬ。眞の獨立の存在者である。しかし人格的生命には少くも三個の必須の要素があ

態を考ふる時、當時個人の價値など殆んど念頭になかつた事を見る。國家あり或は市あるも個人はそれ自身に於て無價値同樣であつた。ステイトの爲の個人に過ぎない。ユダヤに於ても神は父なりといふ思想がイエス以前にあつた事は確かであるがそれは神はイスラヘルと云ふ民族、國家の父であつて個人の父ではなかつた。其處に基督が來つて神は汝等個人個人の父であると教へ「もし人全世界を得とも其生命を喪はば何の益あらんや」（マカ八の三六）と個人の價値を極度まで高められた。

　しかし此個人の價値を高く認むる爲に、基督教を以て非社會的の意味の個人主義と呼び反社會的と思ふは誤りの甚だしきものである。神學論に入るわけではないが基督教の中心教理の一たる三位一體を以て考へてもその反社會的ならざる事が證される。三即ち一と云ふ事ではない。一神中に三人格ありとな

故に一切他に頼らぬ。眞の獨立の存在者である。しかし人格的生命には少くも三個の必須の要素がある即ち知識と愛と道德的經驗である。然るに此知識、愛、道德的經驗は主たり客たるもの、少くも二者對立の關係以前に成立する事は出來ない。若し神が孤獨の人格であつたとすれば、神自身に於てこの高き經驗をなすことは出來ない。此世界とその中にある人類を對象とし之に賴らなければ神の道德的經驗は不可能の事となる。然し我等の神はそんな貧弱なものではない。キリスト教の神はその內生活に於て既に完全なるものである。世界と人とに賴らざれば人格的生命を完成し得ざるものではない。父と子と聖靈との三人格の間に既に完全なる道德的關係、愛の交り、社會的生活がある。この意味から我等は三位一體を奉ずるのである。如斯我等は神自身の生活が完全なる社會的生活であることを見る。我等が社

會に實現せんとする理想的生活は要するに父と子と聖靈との間にある天上の社會的生活を地上に移すに他ならぬ。基督教を以て非社會的反社會的と云ふものは自己の無知を示すものである。そしてこのキリスト教の社會生活は卽ち奉仕の生活である。「人の子は人を使ふ爲に來らず。人に使はれん爲に來れり」とのキリストの御言葉「互の勞を任へ」「愛を以て互に事へよ」とのポーロの言葉はその社會生活の性質を示したるものである。

玆に少し重複する樣であるが注意すべきはその奉仕の方法形式である。我等は如何にして奉仕の實を擧ぐるかと云へば直ちに人に肉迫してその人の助けをなし改造をなしその個人の人格に重きを置く。一般社會主義その他社會事業家の重きを置くところは人格外のものである。社會組織、經濟組織、境遇を改善すれば人は善くなるとする。キリスト教は人を先づ作り變ふる時それらの外界の組織は自然變化し行くとなす。彼等は人を境遇の產物となし我等は境遇は人の造るところとなす。前者は物質に重きを置き後者は個性を高調する。ヘルバート、スペンサーが「政治上に於ては鉛の樣なものから黃金の如き行爲を作り出す錬金術はない」と云つて居る。卽ち古へ下等の金屬から種々調合苦心して高等の金屬を作り出して居た錬金術なるものがあつた。しかしそんな事は政治界には有り得ないとスペンサーが政治界を痛評した言葉である。物質界は知らないが政治界ばかりでない。社會のどの方面にも鉛の如き人間から黃金の如き行爲、社會組織を作り出す事は出來るものではない。「誰か荊棘より葡萄をとり蒺藜より無花果を採ことをせん。凡て善樹は善果を結び惡樹は惡果を結べり。善樹は惡果を結ばず。惡樹は善果を結ぶ事能はざる也」（マタイ七の一六ノ一八）先づ人を作れ。然らば境遇組織は自ら作らるゝのである。或人は基督教を社會化せよと叫ぶ。教會を社會化せよと云ふ。然らざればキリスト教は自滅し社會はキリスト教を葬り去るべしと。これらの批評痛罵

つ神の國とその義とを求めよ　然らば此等のものは皆汝等に加へらるべし」「誠に實に爾に告げん、人もし新たに生れずば神の國を見る事能はじ」と。

天國實現は理想である。實現せざるべからざるもの、實現さるべきもの、唯その實現の方法は先づ新人を作る事である。新人の創造成つて自ら新天新地の實現を見ることが出來る。故に我等が基督の律法を全ふせんとする時即ち愛を以て事へ、互ひの勞を任ふの時、瞬時も忘るべからざるものは我等が人を助け人を導き人を新たにする爲にこれをなすてふ事である。人の姿を見失ひ唯組織、事業、活動のみが目に入る時我等は根本的のものを見逃がす事になる。

前に云へる如く「勞」は自己の力以上の重荷を意味する。「任ふ」とはそれらの弱き兄弟等が力に餘る苦しみに會へるを助ける事である。ポーロはローマ書十五章の一節に此原語を用ひてガラテヤ書にい

者の[illegible]を負ひて己の心に[illegible]り」と。玆に基督敎の特種の道德がある。强者が弱[illegible]者を高き者が低き者を、上なるものが下なる者を助[illegible]くる。これキリスト者の奉仕である。古來東洋の道[illegible]德は勿論凡ての基督敎以外の道德は下なるものが上[illegible]に弱者が强者に仕へるの道を敎へたものであつた。十九世紀の聖者と云はれたヘンリー、ドラモンドが[illegible]生存競爭「Struggle for Existence」を說いて居た當[illegible]時の風潮のうちにありて、熱心に他の爲めの奮鬪、「Struggle for other」を高唱したのは、正しくポーロの精神卽ち基督の律法を實行したるものである。此事に關聯してポーロの言葉に含まれて居る意味は[illegible]力と云ふことである。互ひの勞を任ふ事、それは無[illegible]力では出來ない。又愛の動機あるのみでも充分でない。卑近な實例は好く溺死者を救はんとして自ら[illegible]溺死する者のある事である。そこに溺れつゝある[illegible]の弱き兄弟を助けんとする愛の衝動、意志、動機は[illegible]

實に美しく尊い。しかしそれのみでは溺死者は救はれぬ。愛の動機に之を果す力が伴はざればその結果に於ては失敗となるのである。その道德的價値は滅じないかも知れないが傷ましき結果に終る。この失敗に陷らず、深く自ら養ひ充分の力を以て奉仕の生活に入るべき一大精神を敎へられたるはヨハネ十七章十九節のキリストの聖言である「我かれらの爲に自己を潔む」即ち自己を聖別し神の力に充され自己充實の理想を完ふし而して社會奉仕の生活に入ると云ふのである。即ち自己充實と社會奉仕と兼ねて基督の律法を完ふするのである。

そして此奉仕の生活「愛を以て互に仕へ」「彼此の勞を任ふ」てふ事が我等の永遠の運命を支配するの大なる結果を生み出すのである。ポーロが「互の勞を任ふ事」を以て「基督の律法を完ふする事」と云つた意の深さも玆で知られる。我等が聖書を通讀して最も莊嚴なる記事の一は馬太傳二十五章に記されたキリスト御自身の唇より洩れた人類最後の審判の光景であらう。しかし此記事を讀んでその莊嚴に驚くと共に氣づくのは永遠の福の中に入るものと然らざる者との運命の分るゝ條件の餘りに簡單な事である。「我まことに爾曹に告げん、旣に爾曹わが此兄弟の最微者の一人に行へるは即ち我に行ひしなり」「吾父に惠まるゝ者よ。來りて創世より以來なんぢらの爲に備られたる國を嗣」「我まことに爾曹に告ん此最微者の一人に行はざるは即ち我に行はざりし也」「我を離れて惡魔とその使者の爲めに備たる熄ざる火に入よ」斯の如くして我等の最後の運命は決定さるゝ。門閥ではない。財產ではない、知識ではない。年齡ではない、愛の小さき働きをなせしや否や「互ひの勞を任ひ」しや否や「愛を以て互に事ふ」るの事をせしや否や。これが判決の條件となるのである。實に一見些細と見ゆる事が永遠の意義あるものとなるのである。簡單な事が基督の律法を全ふもし破壞もする事となるのである。

最後に「彼此の勞を任へ」との奉仕の精神より學

ポーロはコリント前書十二章に人類はユダヤ人たるとグリシヤ人たると奴隷たると自主たるとに關らず一の體であつて、それに屬する多くの枝であることを委しく敎へて各相扶け相顧みるべきを述べて居る。その間の關係は有機的で「もし一の肢苦しまば諸の肢ともに苦しみ一の肢貴まれなば諸の肢ともに喜ぶなり」と云つて居る。更にコリント後書十一の二九に敎會の内部の事を記して「誰か弱りて我弱らざらんや。誰か礙て我が心熱せざらんや」と叫んで居る。この相互の有機的關係を思ふて社會奉仕の理想を完ふせねばならぬ。ピーボデー博士がハーヴアード大學の學生になしたる說敎の中に次の樣な事を云つてる。世に對して取る態度に三通りある。第一は此世界は唯自己の爲めに存在して居るとし、人生の目的は自己完成である。自分の敎育、自分の進步自分の成功、わが問題は自分を助ける事で、自分のモツトーはカインがアベルを殺して後神に對して平云ふ態度であると。第二の態度は此處に二つの世界があると見る。即ち自分の世界と他のものゝ世界である。そして氣が向けば自分の高い世界から他の低い卑しい世界へ好奇心にかられ或は憐憫の情より手助けをしてやると云ふのである。第三の態度は此世界は一つ世界であつて唯一人として自らの爲にのみ生き又死するものはなく一人の禍福は又他の禍福となり自らを充實せしむるは他の奉仕の爲、一切の事は凡て斷つべからざる密接なる關係の中にあるとするのであると。世には第一の態度第二の態度をとるものが案外多い。しかし基督の徒のとるべき態度は第三のもの以外にはない。凡てのもの皆キリストに於て一なるもので各々自らの爲めと同時に他の爲に活くべきものである。社會奉仕はやがて自己完成であり自己完成は又社會奉仕である。これは個人と個人の間一團體と他の團體との間、國と國との關係、人種と人種との交りにも適用すべき原則であつて[illegible]め

る者と貧しき者、貴族と平民、黄色人種と白色人種もしくは黒色人種それ等の差はないのである。先年逝いたハーヴアードのロイス教授の「基督教の問題」なる書のうちにキリスト教を以て最も發達した忠義の宗教であると云つて居る。そして忠義を定義して「The practically devoted love of an individual for a community」となして居る。更に語を繼いで、もしキリスト教に教があれば此一人一人が廣い團體、人類全體に對する愛の奉仕、愛の忠義の念によつて完ふされるのであると。この忠義たるや一民族に對するのではない。更に廣義のものである。世界大戰の當初ブラッセルにあつて看護婦長として働いて居たエヂス、カヴエル女史が獨逸の官憲の爲に捕へられ銃殺さるゝ前に從容として發した不朽の言「Patriotism is not enough」と。ロイス教授の言と合せて玩味する時今後の世人の取るべき態度が暗示されて居るやうに覺える。誠に我等自身、自己の一家、己が國をのみ愛するてふ立場にありては未だ充分ではない。高き人道の立場、神を根柢とし全人類を同胞と見る一大有機組織の中にあるを自覺しなければならぬ。世界は唯一である。各自はその全體を支ふべき使命を持つて居る。各自は皆一種の微妙なる樂器である。そして全體のシムフオニー、オーケストラを完成すべきに缺くべからざる要素である。基督者のなすべき事は「互ひの勞を任ふ」ことによりその一部一部の微妙なる音樂を作り出し、基督の律法なる大シムフオニー此宇宙最大の精神的大音樂を完ふする事である。「なんぢら彼此の勞を任へ、斯して基督の律法を全すべし」

何事よりも先たがひに篤く相愛することをすべし、そは愛は多の罪を掩へばなり。（ペテロ前書四章八節）

ピリピ書講解（五）

佐波亘

□今回は二ノ一――十一を講解します。こゝに「我が喜悦を充たしめよ」とありますが、パウロには聖なる不滿足があつたのです。勿論それは普通申す不滿足ではありません。人が信仰を抱いて主耶蘇基督を想ふ時に經驗する不滿足です。それは即ち曩にパウロがピリピ教會のために祈つた祈禱にも（一ノ九）あらはれて居ますが、彼はこの場合その教會がもつと善くなるやうに願はざるを得なんだのです。

□何故ですか。當時ピリピ教會には、パウロをして實に憂慮措く能はざらしむる幾多の問題があつたのです――ユウオデヤ對スントケのこと（四ノ二）、或は「凡ての人に汝らの寛容を知らしめよ」（四ノ五）てふ言、或は又「神の平安」（五ノ七）てふ言を見ても略察せられるやうに――黨爭分裂があつたのです。彼は多分エパフロデトからそれらの事情を聞いて居たのでせう。

□神は人々が一つになることを望まれるにも拘らず人々は相互に分れんとします。これは事實です。まことに悲しむべき事實です。そこでパウロは一ノ二十七に於て「汝らが靈を一にして福音の信仰のために共に戰ひ……」と言ひましたが、今こゝには彼のそれらの願望と連絡して「この故に」（二ノ一）と言つたのでせう。彼はこの章に於て極力協同一致の精神を高調して居ます。

□こゝにパウロは吾人が一になるべき理由、言ひ換

れば此等だにあるならば人は分爭分裂を止めて必ず一になり得ることを示したものです。即ちその第一は『キリストによる勸』です。モフアト譯には All the stimulus of Christ とあります。信仰生活とはキリストの刺戟、奬勵によつて、自己を中心としては到底出來得べくもあらぬことを、容易にやつてのけることが出來る生活を言ふのです。

□第二は『愛による慰安』です。Every incentive of love です。愛は實に神秘なる力です。愛ほど不思議な作用をするものは外にありません。人は愛に鼓舞激勵されると隨分偉大なることをするものです。それは金の力や、名譽の力などの到底爲し能はざるところを爲させます。然もそれがイエス・キリストの十字架の愛に感激する場合にはです。蓋想像に難くはありますまい。彼のジョーヂ・マセソンの讚美歌を見ると、それには "Oh, love that will not let me go." とあります。實にさうです。

□第三は『御靈の交際』です。All your participation in the spirit です。輕舟が春風に帆を上げて快走するやうに、靈も天より吹き來る風のまに〳〵生活し、決して風に逆つて櫓をおさぬやうにすること。言ひ換れば信仰によれる聖き良心の私語に從ふことです(コリント前書十二ノ四―十一參考)。

□第四は『憐憫と慈悲』です。All your affectionate tenderness です。以上四つの生活經驗だにあらば、教會は勿論のこと家庭でも、人は各その屬する社同生活に於て、『互に人を己に勝れりと爲し、人の事をも顧みる』に至り、結局は『念を同じうし、愛を同じうし、心を合せ、思ふことを一つにする』やうになるでせう。

□以上述ぶるところは一言にして言へば、『キリスト・イエスの心を心とする』といふのに外なりません。即ち『彼は神の貌にて居給ひしが、神と等しくある事を固く保たんとは思はず、反つて己を空しうし僕の貌をとりて人の如くなれり。既に人の狀にて現れ、己を卑うして死に至るまで、十字架の死に至

とはキリストの例に倣ふて生活することです。Immitation of Christ です。然ながら吾人の注意を要する點は、吾人がイエスが行はれたそのまゝを行はねば

の眼に映じた耶蘇は、『見得べからざる神の像にして……』(コロサイ書一ノ十五)、『神の榮光のかゞやき、神の本質の像』(ヘブル書一ノ三)であつたのです。基督に對する白

itation of Christ です。然ながら吾人の注意を要する點は、吾人がイエスが行はれたそのまゝを行はねばならぬと言ふのでないことです。それはイエスが吾人に期待したまふやうに生活することです。此點は嚴密に言ふ場合には是非區別することを要します。無論、或意味に於て吾人の生活は、シエルドンの『みあしのあと』"In his steps" のやうであらねばならないけれど。

□二ノ六――一一とヨハネ傳一ノ一――十とを對照して讀むと頗る興味深く感ぜられます。こゝにはパウロの眼に耶蘇と基督との區別がないかのやうに見えます。詳しく言へばパウロは史上の耶蘇といふお方と、信仰上の救主なる基督との區別、更にむづかしくいへば彼の人性と神性、目に見ゆる御容姿と神々しい人格、それらが一つになつて、渾然として玉のやうに圓かな、その間には全く微塵だも無理のな

……」（コロサイ書一ノ十五）、「神の榮光のかゞやき、神の本質の像」（ヘブル書一ノ三）であつたのです。基督に對する白熱的信仰といふのは蓋斯の如きものをいふのでせう。神學上にいふインカーネーションの教理とは此邊の消息をたゞ學術的に述ぶるに過ぎません。オーソドキシーの信仰とか、エヴアンジエリカルの信仰とかいふのもこれです。

□「十字架の死」、世にこれほど神秘なる事件はありません。吾人は歴史を開いて何處にこれに比ぶべきものを發見ことが出來ませうか。眞にこれは詩としては大なる詩、劇としては大なる劇ではありませんか。人が忌み嫌ふところの然も慘酷なる磔刑が、「榮光」の輝き眩惑ばかりなる冠とならんとは。ひらたくいへば十字架が高貴なる飾章にならんとは、當時何人がよく想像し得たでせうか。然しながらこれは事實です。驚くべき不思議なる事實です。それ故

パウロは申ました「ユダヤ人は徴を請ひ、ギリシャ人は智慧を求む。されど我らは十字架に釘けられ給ひしキリストを宣傳ふ。これはユダヤ人に躓物となり、異邦人に愚となれど、召されたる者には、ユダヤ人にもギリシャ人にも神の能力、また智慧たるキリストなり。神の愚は人よりも智く、神の弱は人よりも强ければなり」(コリント前書一ノ二二―)。

□キリストは「汝等のうち大なる者は、汝らの役者とならん。凡そおのれを高うする者は卑うせられ、己を卑うする者は高うせらるゝなり」(マタイ傳二十三ノ十二)と仰せられましたが、彼はつひに身を以てこれが眞理を實現されました。このピリピ書二ノ九―一一はヘブル書二ノ五―一八を對照して讀むとよく理解することが出來ます。基督教倫理に於ける謙遜の德はその基礎をこゝに發します。

□こゝに「イエスの名によりて膝を屈め」とあります。ヨハネ默示錄第五章は、パウロが用ゐたこの言を、宛然活動寫眞にして見るやうな心地がします。

外に(ロマ書八ノ二十一)(コリント前書十五ノ二十四)(エペソ書五ノ二十一―二十二)(ヘブル書二ノ八)參考。チャールス・ラムは言ひました。「若しシェイクスピアが學者たちの中に現はれなば、彼らは一同起立して敬意を表するであらうが、イエスが來られなば、彼らは一同膝を屈むるであらう」。世にはクリスチャンと自稱して居ながら、事實上イエスを拒むやうな者もあります。神は拜むけれども、イエスを拜まぬといふやうな連中も居ます。けれども基督教は畢竟するに「イエスの名によりて膝を屈め」しむる宗教に外なりません。聖書の教ゆるところは實に斯の如きものであります。諸君は如何に考へられますか。

シモンペテロ之を見てイエスの足下に俯して
主よ我をさり給へ我は罪人なりといへり。

ジョセフ・エルキントン

森田松榮

森田松榮

私の交際の範圍はごく〳〵狹い。その中から去年から今年にかけて、約一ヶ年の間に、師と先輩とで既に五人に別れた。何といふ慌たゞしさであらう！寂しいのは秋には限らない。

「その日々々のことは、どんなに寢るのが遲くなつても必ずキチンと爲て了ふ人でしたから、怠惰のために、爲殘していつた仕事といふものは何一つなく其點にも氣はごく安らかで逝きました」と一人の夫人は思出話をされた。

「どうもあゝ先生にばかりみんなが賴つては、それに先生は何でも引受けて下さるので、弱い健康に無理だとはいつも思つてたのだけれど、やつぱり先生が一番よくして下さるので、つい此仕事もあの仕事もと、みんなが持ちかけたりして」と多くの人々は某師を追憶してゐた。

ところで「あなたの病氣は、忠實な僕みたいにあなたをちつとも離れませんね」と友達から云はれてゐる私は、たゞ敎へられ、導かれ、受けてゐるばかりである。いつか去つた師友の話を親しい友としてゐた時、

「あの方たちの事を考へて見ると、それ〳〵する丈の事はして、魂の準備が出來てゐる。私のやうに指導や友情を受けつぱなしでゐるものが、今ぽつくり去つちや、社會を「食ひ逃げ」するやうなものですね」と云つて共に笑つたことがあつた。

先月號に河井先生から訃を傳へられたエルキント

ン氏は、前に擧げた五人の一人である。

とかく死んだものゝ事は不知不識善化し美化し易い。少尉から殆牛馬扱ひにされてゐた兵卒が、戰死すると「御神靈」となつて大將から拜まれるといふ程突飛でなくとも、用心しないと私の心にも危い傾がある。勿論缺點が薄れて、長所がはつきり強くなつて行くことはいゝ、然し一歩過まつての偶像化は故人に對する禮儀からも愼まなければならない。

私がエルキントン氏を知つたのは、エリザベス・フライの翻譯をする時、津田梅子先生から「原著者の許可を得るにはエルキントン氏を通してがいゝ」と云はれて、手紙で紹介されて手紙で知り、數年前日本に氏が來られた時、氏の令妹新渡戸夫人の家でたゞ一度面會した丈であるが、手紙や書物を通じて隨分指導された。

「渡米する支那と日本の青年男女で、エ氏の世話になつたものはどれ程あるか分らない」と女子大學に數へて居る某女史と、同窓の一友とは曾て私に話したが、一面識丈しかないほどの者で、氏から通信、書物、雜誌等を受けてゐた人々は私の知つてゐる人でも幾人もあつた。

氏は先年東京に滯在の數日間に、かなり諸所で說敎されたのに、私は一度も聽くを得なかつた。「エ氏の講演は詩である」とか、「靈感に燃やされる」とかは親しく接して聽いた人々の評であつた。

氏は友會徒であつた。そして友會の精神に終始一貫した人であつた。これには氏の育つた家庭の感化がよほどあつたことゝ思はれる。

第一氏は絕對の非戰論者、無抵抗主義者であつた樣に思はれる。氏の父上は六十年前の戰爭の時如何なる方法にせよ同胞を殺すのは、キリストの精神に悖るからといつて徵兵の召集に應じなかつた。時の大統領リンカンは同氏の良心からの抗議を重んじて、兵役から免除したといふ。エ氏は歐洲大戰中、時に非戰論、無抵抗主義のパンフレットや、同主義の迫害の記事などを送つてくれたが、アメリカ政府の同

主義者に對すると同樣に思はれた。たゞ基督教國と標榜してゐる丈に一層奇異の思ひがした。氏及び其家族は戰爭には主義上加はらなかつたが、氏の長女は同じ信仰のスコットランド人と結婚し、負傷者の世話をしたり、戰爭によつて出來たよるべない避難民を約一千名も世話したり、又氏の長男はフランスの戰跡に行つて、砲彈銷煙に荒らされた廢地を田畑や村落にするために同志と勞苦したりして、熱心に建設の事業にいそしんでゐた。

「老人も少年も祖國の爲、人道のために、劍をとつて起つ時に、頑丈な青年がそれを平氣で看過して居るなんて、氣がしれない」とは幾多の歐米のキリスト教徒から友會徒が浴せられた譴責非難の聲であつた。「二百年前一萬三千人の友會徒は、何故不忠不義の汚名を蒙りつゝ甘んじて投獄の迫害に堪えたか又一千三百人は罪人として牢死したか？ 起つて劍をとらば名譽と地位とは忽ち掌中のものなるに、ど

は、我等が神に示された道を選んだからである。
リストに從へばこそ我々は劍をとらないのである。
白刃を兄弟の胸に突當てながら。我々はどうして
の父の顏を仰ぎ得やうぞ！」これが彼等の心であ
た。彼等は自己に與へられた十字架と信ずる所の
のを命がけで背負つたのであつた。この確信が二
年後の今日なほその子孫の中に根深く据えられて
るのを、我々は氏と、其家族にも見るのである

第二、友會派には洗禮も聖餐もない。形式を飽
まで排斥して、精神を非常に尊重する。それが極
にいつて、時に矛盾に陷る弊もあるが、聖靈を信
ることあつく、從つて自重を生じ、他の人格をも
重する。友會徒が奴隷解放の先驅者であつたこと
教會政治に於て男女同權の最初の實行者であつた
と、アメリカ土人の保護者であること（エ氏の
百年前　私財でニューヨークにアメリカ土人の傳道學校を建て　エ
はその評議員であつた。）戰時税を拂はず徵兵に應

い事によりて、非戰主義を實行してゐること、窮乏の他國人を助けること（旅人をねんごろにすることは友會徒の美點の一として反對派の同國人さへ昔から推賞してゐたが　歐洲大戰後英米の友會徒はフランスの荒土回復に續々渡航した。　エ氏の支那、日本の留學生に對する好意ユダヤの兒童になせる盡力、　此度イギリスで逝かれたのも　歐洲中央部の飢餓を救ふ爲の途中であつたといふ。氏の子女ともに戰後の荒土や窮民の回復に盡力した）　等は人種、國籍、男女、文野を問はず、あらゆるものゝ中にキリストの靈を認め、神の廣大平等な愛に對する眞の理解と確信と感激とから出て居るものと私には思はれる。

エ氏を語るには、氏自身にまさるものはない。左はエ氏の書信からの拔萃である。

「我々は我々の天の父を、自分達から離れてゐるものとして考へ易い。けれど父の靈が少しでも我らのうちにゐますときは、父は我らにゐ給ふので、我らは父の一部分なのである。父は我らに、自分達や、他の人々のうちにある靈的生命を認識し得る機能を下さつた――それで我らは絶えず父を探し求めてゐるのであるが、これは實は、我等の生命を父が鼓舞喚起して我らの中にある父の靈を表示させやうとしてゐたまふのである」かく氏は靈の內在を信じた。

「自分は年をとるに從つて、ます〳〵はつきりと神がいかに萬人を愛し給ふか、如何に我らの此靈魂が神の一部であるか――丁度息子や娘が地上の兩親の家族の一部であるやうに――を見る。此思は右の手が自分に於るが如く、天の父にとつて自分が御用にたつものとなりたいと、私に切望させると同時に、人といふものを非常に尊重させる」斯く彼の廣い社會奉仕は神の普遍の愛に對する感激から生れてゐた。

「イエスキリストの靈の聲と交とを知る方法は、我々自身の心にやどつてゐる彼の靈に仕へ、靈の示しに應ずる事である」かく彼にも神と交る方法があつた。然し其はあく迄も靈的な直接な方法であつた。

「若い人達にかこまれた時、眞理をはなさなければならないやうな靈感に鼓吹される以上の幸福は私に

の事を質問させる時の私の歡喜は云ふべくもない」「我々の一番い丶思想や經驗を交換する事は、最大の特權である。惠深い天の父が我々に下さつたものを、互に分ちあふことを私はいつでも喜ぶ」此心から彼は同國人はもとよりユダヤ支那日本の男女を問はず廣く信仰上の交際をした。

「キリストは信者と同樣に、未信者を愛し給ふ、そしてキリストは彼らの中にやどつてゐ給まふ（あらゆる最善の中にキリストは居給ふ）のであるが、未信者はたゞキリストを見ないのである。あらゆる願望を支配するイエスの眞の靈をやどしてゐる　魂は、誰もが感じずにゐられないほどな愛となさけとを有つてゐる。何故ならば、その魂は、既に世を新たにしたところの性質(靈)をもつてゐるからである。

我等は學ぶ時自分の魂が眞理なりと肯定する場合には、出來る丈多く教師から學ばなければならないが、最上の師はキリストである。と氏は云つて、宗

「神の普遍的愛を把握して、それによつて生活な
い。さうすれば長老派信徒、メソヂスト、佛教徒
儒教徒、否、無神論者をも容れる事が出來るので
す。神樣の種は彼等のすべての中にあるのです
ら。言語や學說や、信條や組織で心を混亂されな
やうになさい。イエスキリストが靈的に御自身を
なたに與へたまふまゝに、キリストの生命にお與
なさい――その時こそあなたはキリストの肉を食
ひ、その血を飲んで、キリストに似るものとなるの
です」

彼は如何に聖書を愛したか。

「舊約聖書は驚嘆すべき教訓に甚だ富んでゐる。そ
れは實に多種類の人間の經驗を載せ、最も頑冥な人
々に對する神のみ業を記してゐる。余は今ウェイア
ウスの近代語聖書を多大の注意と滿足とを以て讀ん
でゐる。毎朝起床前に讀んで、復活のキリストを自
分の魂のうちに感知しやうと努めてゐるが、之こそ

眞に意味のあるイースターである」

丁度これを書いた時、エ氏と親交のある友が訪れて、エ氏の訃を載せたアメリカの「友會徒」といふ雜誌の中に、『エ氏は最も世界的の心を有つた人であつた』と評してあつた」と話した。私達は今更のやうにこの評語に同感した。インターナショナルは「國際的」とも「世界的」とも譯し得る。或人々にとつては飽迄「國際的」を意味するが、「神の國」を理想とする我々にとつてはあく迄「世界的」を意味する。エ氏も後者の意味に於てインターナショナルであつたと私は思ふ。

エ氏は世を去つた。しかし、直接關接の感化によつて、今猶生きて、多くの人の信仰を鼓舞激勵してゐる。

エ氏が夫人及息女と共に、信仰上及び社會上の奉仕の爲、先年渡英した時、アメリカの友會徒から英國の同志にあてた推薦状の中に、

「イエスキリストの永遠の働き人なるジヨセス・エルキントン」といふ言葉がある。多くの人の地上の稱號や職業は、その人と共に消失する。然しこの單純で美しい言葉は、文字通りに永遠に存することゝ思はれる。これはイエス・キリストを信じない人々にとつては、何の興味も價値もない言葉かも知れない。けれど、我等信者にとつては、これにまさる稱號も職業もないのである。（これは職業的傳道者には限らない。エ氏も職業的傳道者ではなかつた）そしてこれは、ある特種の人々しか受ける機會のない言葉でもない。我等のために十字架に死したキリストは、今（然りいつも）我等に受くべき機會を與へて居給ふのである。受くるも受けざるも我等自身にある。

「我を信ずる者は永遠に死なざるべし」

（ヨハネ傳十一〇廿六）

結婚に對する基督者婦人の態度

川戸　環

基督を信ずる婦人として結婚に就ての第一の理想は、先方が眞に主イエスキリストを己が救主と信じ生活の諸方面に於て此信仰に舵をとられながら進む人であるといふ點に置かなければなりません。同時に氣性に於ても相共鳴し相牽引する所があり、然も何れも宗教的に優秀な素質を所有して居る二人の者の間に行はれる結婚が最も理想的でありませう。婦人は自分の配偶者として極力斯る人を選擇すべきであると思ひますが、同時に己も亦斯樣な資格を自分の中に見出し得るか否かを謙遜に省みなければなりません。

然し現在の日本の社會では、此理想を固持して進む事は隨分困難のやうに思はれます。例へば所謂立派な人物と云はれる人であつても、てんで宗教に就ては無關心である許りでなく、斯樣な問題を理解し得る素質のない人を可成多く見受けます。之に反して信仰、人格共に非常に立派な人で、個人としては申分がなくても、自分の氣性と共鳴し自分の素質を相補足すべきものを備へて居ない人もあるのです。而も結婚は如何にしても避け難いといふ事情の下にある婦人が少くないと思ひます。

斯る場合、イエスを信ずる者のとるべき方針は、第一の理想に一歩を讓つて、少くとも先方が他日イエスを救主として受入れ得る見込みのある人、即ち

其品性高潔にして常に聖善愛なる見えざる手に導かれる事を意識的にか、不知不識にか渇望して居る人を選むべきでありませう。此は世の所謂人格者――宗教心もなければ精神的進歩の餘裕もない型にはまつた――を申すのではありません。言を換へて云へば、見えない清い力に自分を適應させる動力の強い人で、常に自己以上の力の導によつて起る靈の働が、身體、頭腦感情を支配し、精神的生活を共になし得る人を申すのであります。

然しいくら高尚な宗教心の所有者でも基督教ならざる宗教に熱心なる人は、避くべきであらうと思ひます。自ら好むで信仰上の軋轢の絶えぬ家庭をつくる必要が何所にありませうか。

次に趣味とか教育とか申す事も考へなければならない事であらうと思ひます。趣味は必ず同じでなくても、高尚な趣味性を有つて居る人ならばよいと思ひます。又教育に就ては學校の種類とか程度とかいふ事よりも、眞に活きた教養があるか否かを問ふべきでありませう。氣性といふ事は餘程考へねばなりません。人が永久的に相牽引するのは多く氣性に於てです。互に全く同じ氣性をといふのではなく、異つて居る事は差つかへないのですが、或微妙な共鳴點のある事を要します。氣性の共鳴が大切ならば從つて職業の種類に就ても多少考へねばなりますまい何故ならば、人はなる丈け境遇と性格との間の矛盾を避けねばなりません故。

それから遺傳的に虚弱な體質、傳染病を有つて居る人等の結婚には賛成出來ません。

結局、結婚につきキリストを信ずる者の注意すべき項目は、信仰、品性、氣風、趣味、教養、健康等であります。而して右の諸點に於る相手方の資格を考究すると同時に、己も謙遜に自身を省る事が肝要であると思ひます。

重ねて申上げますが、イエスを自分の救主と現在信じて居り凡ての努力が此信念に基いて居る人とでなければせぬ結婚は、最も理想的であり、斯る結婚

の幸福は言ふを俟たぬことであります。堅固な信仰の立場に立つて、眞に聖い幸な家庭をつくつて居る婦人の例は幾らもあります。之に反して第一歩

信仰の立場に立つて、眞に聖い幸な家庭をつくつて居る婦人の例は幾らもあります。之に反して第一歩の妥協が生涯の失敗を招いた人達の例も少くありません。

私は數年前一人の友達から次のやうな言葉を送られました。

「結婚せんとする兩人の愛は、キリストに依つて結ばれたものであり、それは又共に十字架の周圍を一巡した愛でなければならない」

之は眞に意味の深い言葉で、いろ／＼の教訓を此中から學ぶ事が出來ると思ひます。社會の事情や境遇に支配されない強い信仰の婦人は、結婚の理想を此所に置くべきではないでせうか。眞の信仰は年若き婦人にでも、諾を諾とし否を否とする勇氣を與へるものであると信じます。(談)

故ブース夫人の育兒訓

一、生れぬ前より其子を神に捧げる事

二、必ず命令に服從せしむること

三、惡魔の先を越して幼いときから神を信ぜしむること

四、汝は一個の救主として世に生れたるものなりといふことを常に敎へ込むこと

五、世俗的の虚榮心を極力戒むること

六、我が子の面倒は必自分で見ること

誌友の頁

投書を歡迎致します
締切毎月十五日

感想

村岸榮子

婦人と團體事業、是は到底兩立しない物なのでせうか。一と頃關西の名流婦人達から組織され、かなり眞摯に、大規模の發展を見せて居たPL會の內訌も、最近大阪のピアノ同好會內に起つた紛紜も、要するに婦人の淺薄な感情の齟齬だらうと、一概にけなして了つて、餘り問題にしない向を多く見受けます。私は深く立入つて一流夫人達の態度に決して批評がましい眼を向ける譯ではありませんが、敎養も常識も共に人並以上に勝れて居る彼等として、餘り一朝なり一夕なり籍を置いた會に對する愛の足りない事を飽き足らず思ふのです。自分さへ不愉快な圈內を脫して了へばとか、自分さへ自己の信念、主義に徹して行けば、といふ利己本位から、後に殘さるゝ會友とか會といふ物をてんで顧みる事をしないのは、神を信ずる私にはそれは餘り我まゝだと映ずるのです。脫會をする代りに自分より無理解な會その物、或は會友達を憐んでそこに大きい犧牲を拂つてふみ止まつて下すつたらどうなるでせう。心から愛の涙を捧げて團體の向上、改善のために御盡力下すつたらどうでせう。眞に會を愛し尊重するものが二三あつて御覽なさい。きつと其の會は盛になつて行くものです。私達は何事にまれ、愛が不足では事業は爲し遂げられないものです。愛のあり餘つて溢れ出る所、そこに思はざる進歩發展が見られ、意義ある働が出來るのです。故に愛を基として起つ各種の宗敎團體の基礎が、みないづれも堅實であるは當然な事です。生命がいつも潑剌として躍り流れて居るのは宜な事です。我々一つなり二つなり何かの團體に所屬して居る者共は、みな歩みを齊べて團體事業に燃ゆる愛を注いだら、幾多の有益な事業を、大きく深く美しく進歩させる事だらうと思ひます。

「薄墨色の夕雲のかなた、

「此世の中を描くものは半圓であつて、無瑕なま

圓が完成されるのは、未來神の國に於てゞある」

「薄墨色のかなた、
その裏衣は赤々と光明に輝く
私達はその雲の衣を引くり返しに着て、
輝いた所を表に出さう」
から言つた意味の詩句を記憶して居ますが、物象を見るには必ず兩面からせねばなりません。片々丈けよりすると光明なり暗黒なりの一つしか見られない從つてそれを前提とした結論が間違つて來るのです「美しいばらの花にもこんな棘がある」と思つたら同時に、「棘のあるばらからこんなに美しい花が咲いた」と思ひ返す事を忘れ度くないものです。

□

「人生は、是から舞臺へ出樣とする俳優達のとりどりな衣裝がすんだ樂屋の揚幕がさつと揚つて、その瞬間にチラッと中なる美しい幻が、觀客の眼に映じ

「此世の中を描くものは半圓であつて、無瑕なまん圓が完成されるのは、未來神の國に於てゞある」
からいふ事をブラウニングは言つて居ます。私達のする仕事はみな天國で完成せらるゝための準備に過ぎないのです。

□

アーサー王の騎士ランセロラトが大きな輝かしい幻を胸に描いて「聖盃」順禮の途に上つた時、馬の鼻面を遮ぎる樣にして物を乞ふた男がありました。彼は鞍の上から邪慳に投げ出された金貨を拾ひ上げつゝ別に有難相な顔をも見せませんでした。

三年經つた或眞夏の炎暑の中を、聖盃を探ねあぐんだランセロラト騎士は氣も萎へ、姿も衰へて同じ道を通り懸りました。駿馬は瘦せ衰け、ふくらみ切つて居た革袋は今は口を固くしぼめた儘、彼の腰の邊りに力なく垂れ、衣の破れもひどく目立つ有樣で

す。

ふと彼は路傍にうつ伏して呻く男の姿を見やりました。そして求められざるにわざ〳〵馬を下りて聲をかけました。男は渇に喘いで居たのです。騎士は差出さるゝ緣のかけた盃を手にして谷川へ清水を汲みに行き、滾々とした冷水を、火の樣な乞食の唇に流し込んでやりました。とたんに手にして居た盃が燦然たる光を放つて求め求めて得ざりし「聖盃」に變りました。冷かな水一杯のねぎらひでも、イエスは眞の愛のうごきを喜んで受けて下さるのです。

物乞が門邊に立つ時、可哀想だ氣の毒だと心が動いたら、默つて慈善を施したらいゝでせう。たとへ彼方では此方を瞞着したのであつても、その時の至純な心の動きを知り給ふイエスは必ず聖盃に變へて下さるでせう。散々に疑惑の眼でにらんで、戸籍調べをした揚句に形式の慈善をして見た所で、それは生命のない愛の形骸です。

私達は何年かゝつてホーレー、グレールを發見することでせう。

就寢の前

○○○

愛する神樣

私は今宵僞つて「愛する神樣」とお呼びしなければなりません。何卒明日からは本當に心から「愛する神樣」とお呼びすることが出來る子として下さいませ。神樣！ 今日私は外出の道に於て、家に於て、いろ〳〵の罪を犯し惡を思ひ、又いろ〳〵の事を反省もいたしました。そして少しも僞らない己れを見ました。それは餘りきたないものであつたのに本當に吃驚いたしました。それで今晩は私にとつてほんとうに悲しい晩なのでございます。けれども神樣は此やうな私にも又喜を授けて下さいました。

多くの仕事をかたづけさせて下さいました。心が爽になつて樂しい樣な氣もいたします。五六時間前にあのやうな惡い子であつた私が、樂しい等と申上る事が出來る身分なのでせうか。然し神樣こんな幸福を心に秘めて、母の愛の籠つたお布團の中に入つて行く…………何と云ふうれしい事でせう。今日ほしたばかりの温い柔いお布團の中へ…………感謝いたします。

神樣、ルイズやメリーモールは若い時に天國へ行く事が出來ました。其上彼等は百年立つても二百年立つても此の地上の人に老の姿を想像せしめる事はない人達です。私はこれが本當に羨ましうございます。出來る事なら私も早く行き度いと思ひます。然し此世にこんな汚れた印象を置いて去るなんて、まあ大した間違です。ルイズとどの位迄比較が出來ませう。彼女は此世を全く汚れなく送りましたのに、私はこんな姿をして天國に行く事が出來ませうか。

殘した事、そして神樣が私にさせやうとして持つていらつしやることがどれ程澤山ある事でせう。私が求めさへすれば神樣が與へて下さいますのに、私は求めずに知らないで居るのです。

何卒神樣！ 神樣が私の爲に特別に殘して置いて下さるその仕事を皆知る事の出來るやうにして下さいませ。私が決してし殘す事のなき樣に。

神樣、何卒私がいつもありのまゝの自分を人の前に出して居る事が出來ますやうに、僞り飾ることなく、又持つてゐるものをかくす事なく。私はいつも此事の爲に迷ひ苦しんで居ります。

神樣！今宵もくすしき御まもりの下に安らかな一夜を過させて下さいませ。

これらの感謝といのり、主イエスの名によりて聞き召したまへ。 アーメン

讀書紹介（一）

——基督の如く——

上野俊子

今年の正月流行感冒に侵されて寄宿舍の病床にあつた時でした。過去現在の溢るゝ惡を考へて、なぜ此小さい「己」を捨てかね、自ら求めて不自由な生活をして居るのかと弱さに泣いて居りました其時、主に一切を捧げて神と人とに仕へて居る一友は、靜かに、「信者には失望のある筈はありませんね、祈つて聖書に親み之を味ひ、この書を友として、新に自己を主に任せて主に似奉る爲めに進んで下さい」と云つて、病床の慰籍にもと一書を與へられました。

それは廣田鐵五郎氏の譯出されたアンドリユーマレー著「基督の如く」といふ日課になつて居る三百廿頁の本でした。靈的に枯死の狀態にあつた私は、渴き切つた鹿が溪水を見出した時のやうに感謝の涙を以て一氣に讀み通したのです。以來再讀三讀、一週間と手許を離しかねて親しんで居ります間に、此書は終に聖書に次で私の靈性を養ふ豐なる糧の倉庫となつたのです。

私共の執る仕事が何であつても、信徒の最高の希望は主に似奉る事であると思ひます。然し御敎への一つをだに爲し得ぬ弱いものには、主の尊い御約束「我が如く汝等も亦なる」との御聖語は餘りに深過ぎるのです。そして私共は幾度も失望に陷ります。けれど「基督の如く」なる此一書は、不可能事として居る此事に對して、私共の靈眼を開き、如何にせば弱き我等も亦基督の如く自己を捨て得るか、如何にせば天的使命に於て基督の如くなり得るか、如何にせば彼の如く愛し、彼の如く恕し、彼の如く祈り得るかを敎へて居ります。

譯者は其序文に

「餘りに融通の利き過ぎる一般キリスト敎界に對する一服の覺醒劑として」本書を譯出されたと申し

十五日　父に對する信賴に於て基督の如く、
二十日　主を熟視することに依りて基督の如く、
廿一日　謙遜に於て基督の如く、

主に似奉らんと努力せらるゝ諸姉に、私の歩んだ暗い失望の道を捨てゝ、主の尊い御約束「我が如く汝等も亦なる」との御聖語を體得し、「基督の如く」なる事を信徒の全事業として進まるゝ時の、力ある導として此一書を御紹介いたします。

定價　一圓三十錢　東京赤坂溜池町　基督教書類會社發行

× × × ×

ノートから

今夕アンドリウ・マレーの「基督の如く」を讀んで居ました時、次の言葉を見出し、先達貴女と基督の如く恕す事の困難に就て語り合つた事を思ひ出しました。彼は云うて居ります。

「世に主の像を表さんとて召されたる愛するイエスの隨從者よ、卿等が罪の赦免はイエスが卿等の爲に最初になし給へる事の一なり
の一つなるを知られねばならぬ。新生したる心に取つて恕さるゝよ
よりも一層嬉しき悦喜ある事を記憶せよ。即ち他を恕す事の悦喜
である。恕さるゝ悦喜は唯夫罪人の悦喜又地上の喜びである。恕
す喜びはキリスト御自身の悦喜である。即ち天國の喜びである。

○

やゝもすれば聖書から離れて日々の生活を過し易
い愚な私共に此書の敎へて居る事をおきゝ下さい。

「オオ己を棄て、純一なる心もて神が卿に宣ひ且求め給ふことを聖
書について學べ。イエスが日々其生命の糧を見出し給へる聖書を
して又卿が日々の食物となし、默想の題目たらしめよ。悦しき信
仰に充つる期待もて日々聖書に行け。さらば聖書は卿に居る聖靈
によりて、實際卿のうちに其聖き目的を成就するであらう。神の
聖旨に從つて生きつゝあるとの確信以上に何物も人をして强から
しめ又勇氣を與ふる物はない」

右は筆者の深い實驗から記された一文です。便宜の爲此所に紹介されます書籍は當會でお取次ぎを致しますから是非御一讀あらん事をお勸めします。

鵠沼に於る小さな修養會

東京女子大學一青年會員

困難の多い青年會を、もつと各自が眞面目に考へて、どうかしたい、會員相互が集ふて、靜かな生活の内になほ一層神の姿を明かに認め、神の愛の内にもつと團結されたい、と云ふ樣な動機で、去る七月十二日から十五日までの四日間を利用して鵠沼の閑靜な地で小さな修養會を催すことに定めました。

時が時で、長い樂しい夏休みを前にひかへて居つた爲、歸省の都合等から出席し得る人は僅かに六名でありました。それに學監の安井先生と石原謙先生とに御出席を願ふて、打とけた小さな家庭を造つたのです。幸にも、石原謙先生の御親戚の別莊を拜借する事が出來て、日常の外部的生活には何一つ不自由な事もなく、不滿を云ふ事もありませんでした。否もつたいない程でした。丘あり松林あり川ありの廣い廣い庭内には、私共の外に會ふ人もなく、全く世を離れた仙人の心地で生活してきました。

四日間のプログラムは大體左の樣なものです。

午前		午後	
五時半	起床	十二—一	晝食
六—六、半	散歩	一—四	休憩
六半—七	朝拜	五—六	夕食
七—八	朝食	六—七	夕散歩
八—一〇	讀書	七—八、半	夕拜
一〇—一一	講演	九半	就床

朝夕の散歩時になると、靜かな松林の中を冥想してさまようたり、美しい片瀨川に小舟を浮べて物語つたりしました。露多い朝、丘にたゝずんで海を隔てた彼方の箱根連山や、雲の變化につれてたえず變じて行く海邊の景色などに眺め入る時、或は星の夜に川邊を歩いて流の音に耳をかたぶける時など、一種の温い氣分に充されて心から謙遜になりきれるの

友でありました。

講演は全部石原先生がして下さいました。

第一回　シュライエルマヘルの青年期に就て。

第二回　ヒルティの神聖論。

非常に熱烈な信仰を抱いて居たシュライエルマヘルは、其青年期に至つて大きな疑惑に陷つたが、彼は自分の揺ぎかゝつた信仰生活を享楽しやうとはしなかつた。慥なものに達するために、その疑惑をば單なる一階段として、冷靜に見守つて居たのである。そこに彼の偉大さが表はれて居る。といふのが第一回講演の要點であります。

ヒルティの説く神聖論は極く平凡な事ではありますが、その平凡な事を言ふ所に彼の偉い所があるのです。即ち我々は宗教を道徳的基礎の上に置かねばならない。概念的に、或は神秘的に、苦心して神を探し求めなくとも、我々が神聖なものとなる時に、神は共にいまし給ふのである。先づ神聖の要素たる

事、勞働する事、此四つを日常生活に於て守り、努力する時に、我々はキリストの云ふ神に近づいて居るのであるといふのが、第二回の講演の主意でありました。

夜の集會はごく打解けたものでありまして、互に一日の感想をのべたり、祈つたり、或晩は青年會に就て考へ、意見を發表しあふたりしました。又最後の夜は別れを惜んで十一時過ぎる頃迄も語り合ひ、心と心との接觸の如何に尊いものであるかを痛切に感じました。

要するに短い四日間の海邊に於る生活は極く樂しいしづかなものでした。自然と交る事により、心と心との交りをする事により、幾多の問題は解決されましたが、亦同時に幾多の考慮せねばならぬ暗示をも與へられました。

寮生活に歸つて靜かなあの生活の新しい記憶の扉を開けて眺めやる時、其生活の懐かしさと其生活に

よつて充されて歓喜のみが強く深く思はれます。

この心をもつて互は會の目的を果すために何か盡したいと思ふて居ります。而して來年も亦小さな修養會を催したいと、今から考へて居ります。

一九二〇、九、一九

人生の快樂を主義として棄つるはその初めに於て最も困難である。人は無感覺にあらざるよりは、たゞ心を空しうして其中に神の愛を盛り、四福音書に所謂神聖といふ獨特なる經驗を聖靈より得る時のみよく之に堪へ得る。その他の場合に於ては一層強き後戻りが起り易い。

ヒルティ

御殿場の幹事會より
紐育の先生に

眞心から溢れた愛を受ける程貴いものはない。ワイルドの云つた樣に「それは決して形式の言葉で形式の感謝をなし得べきものではない。私はそれを秘密の負債として秘めてゐる。負債それは決して酬いることが出來ないと考へては喜ぶのである。多くの淚の沒藥と桂油とをもて薰らしながら甘くふくよかに胸に貯へてゐる」律法は決して人を育てない。愛のみが人を美しく育てる。しかし愛こそは最大の律法である。要するにキリスト教の最大の誡は人を慰め人を赦し人に對する愛や思ひやりに外ならない。即罪を犯すなといふ消極的なものでなくて、汝の敵をいつくしみ、汝等を詛ふものを祝するといふ積極的なものである。

――二階堂氏著ビアドロ、サより――

二伸　日本の女子青年會館も大きくなりかけ[illegible]
つく〴〵思はずに居れません。これだけの內外人
而も各自異つた才能を有つて居る人達が、眞に[illegible]

紐育の先生に

○

先發のHさんと二人で此所に參りましたのは、どんより曇つた日の午後でした。富士山は雲に隱れて居ましたが、相變らずの山や森、道端の野菊にさへ何か親しみの言葉をかけたい氣さへいたしました。

"I love not man the less, but nature more,"いつかしら私はバイロンの詩の一句を心の中に繰返して居たのでございます。

○

急に凉しくなりましたので、避暑客は僅五六人を殘して皆此處を去りました。東山莊の大きな建物はまるで私共だけに提供されて居るやうな感がございます。氣がねや遠慮はしたくも對手が居りません。

私共が發揮したＹＷＣＡ振りは先生の御想像に御任せいたします。來會者卅七名外人十五名、日本人廿

つく〴〵思はずに居れません。これだけの内外人而も各自異つた才能を有つて居る人達が、眞に一になつて働いたら、何事が爲出かさずに居る筈はい。それにつけても相互の同情と理解と一致とがイエスの最終の祈——こは皆一つにならん爲なりの實現等が、祈りつ考へつ、第一夜を過しました

○

聖書研究は日本の女子青年會のお母様と申上げいマクドナルド先生の御講話が二回ございました一回は哥林多前書十三章からの實際的敎訓、二回は講話に代へて近頃先生が英譯なさいました「聖となれる惡徒」の所々を紹介して下さいました。督の愛に勵まされてなす人間の愛の行爲は、之程きな事を爲し得る力があるのでございませうか!?眞暗な人の心に起つた此革明！此覺醒！今は行はれて居ると思はずに居れません。そしてそは唯愛のみが——十字架に現はされた神の愛に

した愛のみがよく爲し得る業である事を學びました。

× × × ×

「鼻のあたまを赤くして、あんた泣いたのね」

○○さんの大きな目に見破られた私は、此感激の逃れ場を求めて、ひた走りに自分の部屋に………。

○

△△さんと二人、食堂の隅で大きな梨をかじつて居ります。一つ十五錢といふのですから其大きさを御察し下さい。

○○運動、△△問題、□□主義。むつかしい世の中になりました。何れも立派な主張と理由との下になされつゝある事共と思ひます。

「だけれどもね、Aさん、今一番大切なことは、本當に人の心に純福音を傳へる事よりないのよ」

△△さんの此一言、先生、之は此會合中私のきいた一番嬉しい言でございます。私共の働に大きな光明を與へられたやうな氣さへ致します。

○

意地惡の雨が富士山をかくしてなか〱姿を見させてくれません。新來の幹事方に、早く日本の誇を御目にかけたいと、私共は毎日氣をもみました。

「大丈夫、私が受合ひます。明日の日曜はきつといゝお天氣になりますから安心していらつしやい」

さとりきつた○○さんの言、あてにならぬ豫言者とは知りながら、心頼みを彼女の一言に置いた程、私共は晴天を待ち焦れて居りました。

○

聖日の朝は心地よく晴れ渡つて、富士は心殘りなく美しい姿を表してくれました。ハナフォード牧師司式の下に聖餐、禮拜の式を終りました頃、皆の心は一樣に秋晴れの青空に感謝を捧げて居たのでございます。

○

西に東に別れる時が參りました。新しい計畫と決心とが皆の心に燃えて居ります。祈心も充ちて居たに相違ございません。

日本の若い姉妹達とに、私共のもたらすものは何でございませうか。

天然と人

日本の若い姉妹達とに、私共のもたらすものは何でございませうか。

「今も奇跡は行はれる。そしてそれは基督の愛に勵まされた愛のみが、よくなし得る業だ」と私の心は繰り返して居ります。

「私の愛した人は皆救はれた」何年か前に耳の底に殘された大阪の宮川牧師の此言葉が、新らしく魂の底に響くやうに思はれます。

純眞な愛、基督の愛、友の爲に生命を捨て得る愛を、と叫ばずには居れません。私共の缺乏は此所にあるのではございますまいか。

當初の愛に！　當初の感激に！

× × × ×

先生、私共の爲にお祈り下さい。私共は日本の社會の要求に、最も眞劍に、最も根本的に、最も聖旨にかなふて答へ度いと熱望して居る仲間の一つであると私は信じます。（九・一五、H・A）

天然と人

天然と人との間には
無限に通じる愛がある
今日夕暮の空にフト路上で見出した三日月は
何といふ滑らかな光りで、魂を清め、優しく
慰撫してくれたらふ。
どこからこんなに強い慰籍と愛の力が人の身
に迫るのだか知らない。
人と人との間に、天然と吾々との間に
涸れることのない生命の泉は溢れてゐる
自分はその泉を溢れ流せばいゝのだ。

——千家元麿氏の詩の一篇——

東京女子青年會

○市部。夏期休養所を七月三日より八月卅一日迄（但滯在日數四十日）相州鎌倉峯ヶ原にて開催。滯在者總數五十六人。内譯鐵道院事務員十六、女醫一、商館員十五、學生十四、銀行員三、青年會幹事職員五、其他三、一日平均七人弱延人員二七三、來訪者二〇。

○教育部。英語の組、新に會話專任教師としてミスカニングハム加へらる。タイプライター科、ミスレーシイー此科の教師として働かる。體操科、ミスフェリス擔任。來る十月より都市の體操女教師及青年會幹事がワングループを型りミスフェリスの下に體操を初む。

學校世界大會長より

□第八回日曜學校大會はいよ〳〵

ミスレーシー・ミスフェリスの他カナダより來朝されしミスエドガー滯京中（二三ヶ月）當青年會のために働かるゝ事となりたり。

○學生部。九月十七日午後三時半より第一高女ハーベストクラブ親睦會を開く。岡崎氏感話の後茶菓遊戲あり五時散會。出席者卅餘名

九月十八日午後三時半基督敎々師會開催。ミスペーヂの談あり、後心理變化期の注意を共に論じ、五時半閉會、出席者六名。

九月十九日午後二時半より讃美禮拜。「死する者生るゝ者」との別所先生の講話、秋元氏の獨唱「アベマリア」及「ものはかわり」カンニグハム孃のヴァイオリン獨奏あり心行く禮拜をなす。來會者九十餘名

會中此聖歌隊は音樂會で一般公衆の爲め公開せらるゝ由。其會費は

□バザーの件。十月五日より日曜學校世界大會中、神田會館にてバザーを開催す。會員諸姉の御援助を仰ぐ。

讀書會

□大原社會問題研究所にては讀書會を神田表猿樂町青年會同盟本部に催す由。男女二組ありて、女子の組は、

十月七日開始每週木曜日午後三時半より。研究書はジェー・エスミル氏の「サブジェクション・オブ・ウーマン」。解説者、森戸辰男氏又は大山郁夫氏の由。

志望者は京橋區山城町東京統計協會内大原研究所東京出張所に申込まれたしと。會費一圓。

曜學校大會後十月十五十六十八十九二十日の五日間新築大會々場に

學校

□第八回日曜學校大會はいよ〳〵十月五日(火)午後七時より東京驛前庭廣場にて開催せらるゝ事となれり。用語は全部英語を用ひ簡單な邦語を付する由。左は大會中の議題の略記なり。

第一日「日曜學校と世界の進歩」
第二日「日曜學校と世界的進步」
第三日「世界の救主たる耶蘇基督」
第四日「世界に對する神の啓示としての聖書」
第五日「兒童の權利」
第六日「日曜學校と世界傳道」
第七日「日曜學校と教育」
第八日「日曜學校と社會」
第八日「日曜學校と國民生活」
第九日「日曜學校と新世界」

會中此聖歌隊は音樂會を一般公衆の爲め公開せらるゝ由。其會費は三圓五圓十圓にて、利金はハインツ氏紀念會館地所購入の爲に用ひらるゝとの事。因に大會讃美歌を懸賞募集中の所、梅花女學校教授椿貞子氏當選せられたり。之は十月十日(日)生徒大會にて歌はるゝものなり。

□大會展覽會。同會は別に青年會館内にて行はれ、各國日曜學校事業に關して各日に亘りて異りたる種類を提供し幻燈又は活動寫眞に由りて說明せらるべし。

□パジェント。六日九日十二日十四日の四回午後七時より行はるゝ由。

曜學校大會後十月十五十六十八十九二十日の五日間新築大會々場に日曜學校協會、青年會、禁酒會、矯風會、女子青年會、賛育會、東京女子大學の諸團體聯合の下に活動寫眞、音樂會、パジェント等を開催の豫定なり。各團體一つとなり、協力して斯る企をなすは今回が最初の試みなれば特に讀者諸姉の御援助を得て最も效あるものとなし度き希望切なり。プラグラム及切符御入用の方は田町女子青年會本部若くは北神保町東京青年會に御申出あらんことを願ふ。

寄附金

壹千弗　イークルスミア修養會出席者より修養會土地購入資金として

消息

□ヘンリールーミス氏、共立女學校々長ミスルーミスの父君は八月七日輕井澤にて死去。

□矢島揖子氏、九月四日横濱着の香取丸にて無事歸朝せらる。

□河井菊枝氏（河井總幹事母堂）持病再發郷里三重縣松坂町松坂病院に入院せられたり。手術後の經過頁好の由。

□米澤尙美氏　神戸にて馬場久成氏と華燭の典を擧げらる。

□中森りん子氏（共立女學校出身）九月より神戸女子青年會に執務せらる。

□河野靜子氏（お茶の水專攻科出身）九月より大阪女子青年會敎育部に就任せらる。

□佐藤いよ氏（大分女學校出身）九月より大阪女子青年會の事務を受持たるゝ事となれり。

□ミススコット（本部總幹事）九月中旬關西の市青年會を訪問せられたり。

□ミスペーヂ（東京青年會總幹事）今年末迄の豫定にて近日支那に旅行せらるゝ筈。

□ミスレーゲン　暫時本部に執務せらる。

編輯の後に

○久し振りで森田先生の御寄稿を得ました事は御同樣感謝に堪へません。追々御快いやうではいらつしやいますがまだ讀む事も書く事も（本當は）醫師からの御許しが出ないそうでございます。唯考へる事だけは許されていらつしやるとか伺つて居ります。どうか其間に澤山考へて載きまして、働く事だけを餘儀なくされて居ります者の爲に、後日しつかり供給して載き度く願つて居ります。

○クララ評傳は小出先生の御母君御病氣の爲、今月は御執筆かなひませんでした。來月を樂しみにお待ち下さいませ。

○東京青年會員として本誌を御讀み下さいました方々は何卒此後も御愛讀の程御願致します。購讀申込は直接本部に御申越し下さい。

摘要

△本誌代金は總て前金にて御拂込被下度、前金切れの捺印有之候節は直に御拂込被下度候

△御送金は振替にて拂込まるゝ方便利にて且間違も無之候、但手數料壹錢を御加へ下され度候。

△振替、東京、貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税共

	一部	一年前金
內地	金十五錢	壹圓五十錢
海外	金拾七錢	金壹圓八拾錢

廣告料

一回掲載	
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正九年九月廿八日印刷納本
大正九年十月一日發行

發行所　牛込區市ケ谷田町三ノ十二　日本基督敎女子青年會
電話番町四五六三番
振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　牛込區市ケ谷田町三ノ十二　河井道子

印刷人　芝區愛宕町（？）田和泉町七番地　前川吉次郎

印刷所　右同所　三成舍

were features of the day on the mountain. The girls sang hymns and the story of the life of Christ was simply told to the little boys, whose teachers were warmly appreciative. After regular Association vesper service at which a fine report of the Summer Conference was given by Takahashi San, the business girl who attended, another spontaneous session was held on sports and recreation, planning to repeat the week-end excursion, take shorter walks, and play tennis as often as possible.

Accordingly, a walk of some sort was taken every week and on the 31st, the Emperor's birthday, 23 girls took an all day train and launch trip to the island of Awaji, where the Japanese Creation myth is located, and rested, went in swimming, and enjoyed the ancient quietness.

On the 21st of August Miss Topping was the speaker at the summer meeting of the Prefectural Girls' High School. The girls had asked to be told how American girls spent their summer vacations, and seemed interested in the talk and photographs shown, which gave an opportunity to tell about Association summer conferences and camps. About 400 girls were present. This school, built 16 years ago for 300 girls, has been enlarged to accomodate 600, and this year is to be rebuilt to take in 1200.

On September 6th the Board meeting was held, especially to consider a proposed plan of cooperation with the Kencho in emigration work. The proposition from the Kencho is that its new budget for emigrant education should be expended partly in putting in furniture and improvements into our building, to demonsrtate American home life, and in paying a monthly sum toward the rent of the building and part of the salary of the general secretary. The emigrants are to be brought to the building for lectures and demonstrations. The agreement entered into is for six and one-half months, -until the end of March, and may prove to be a wonderful way to enlarge the scope of the emigration work, and also provide equipment which will be of value to the general work, to accept the proposed plan.

Mrs. Otsuka resigned as emigration worker at the end of August, and Miss Onomi will temporarily be the emigration work until another worker can be found. Miss Yonezawa is to be married on September 27th, and Miss Naka mori, a recent graduate of Kyoritsu Jo Gakko, comes to take her place as office secretary.

English, foreign sewing and chorus singing. There has also been a great deal of recreation. The city gave the use of a tennis court in one of the parks for Saturday afternoons and several girls enjoyed playing there. The treasurer of the Board welcomed girls at her suburband home on the bay each week to enjoy the beach and have supper with her. This led to the formation of a new class for games and English. Another Board member gave the use of a vacant cottage on her grounds at Sumiyoshi and many girls went there for longer or shorter visits. One of the gatherings was a conference for prayer aud planning for the Association work. Two concerts were given under Association management by the Russian family Dornhoff.

Two new Japanese secretaries have been secured. Miss Shizu Kono who wril take up the educational work is a graduate of the Tokyo Higher Normal School, aud comes from Yokohama where she been doing volunteer work in that Association. Miss Iyo Sato, office secretary, is a graduate of Oita High School, Kiushiu, and has taught primary school for five years, besides home experience and a position of several months in Hiroshima. An additional helper is Miss Kayo Imanishi, a graduate of the Women's College of Tokyo, who will be the Japanese teacher of the foreign secretaries, and volunteer worker in the Association.

Kobe

Some of the younger business girls in the night school have coniuuted their studies throughout the summer, the average attenda-ncebeing about twenty. Asso vesper services have also been continued, and special emphasis has been laid on recreation. August 4 to 6 a party of the girls climbed Futatabi San for a week-end outing, starting after business hours and returning in time for the office Monday morning. They slept in the Kobe Walking Society's cottage, kindly lent for the purpose, A spontaneous Sunday morming sunrise prayer meeting, and a visit to the Kobe Shogakko summer school being held in Futatabi Temple,

Mrs. Francis de Lacey Hyde, a member of the National Board of the Yonug Women's Christian Association of the United States, with her son and daughter, and Miss Helen A. Davis executive secretary of the Field Work Department of the National Board, were guests of the Association in Japan during September.

The same boat which brought these guests brought five new secretaries to Japan: Miss Grace Mcgregor, Miss Edna Wiser Miss Lelia Lacy, Miss Sarah Ferris and Miss Mary Edgar the last being loaned for the autumn months from Canada.

Yokohama

On September 15 the Yokohama Association opened a residence for foreign young women at 55 Bluff, with fifteen young women installed at once. This house has been needed for some, and the Board is hoping that it will serve not only young women who desire living accommodations, but also be a general meeting center for women on the Bluff. The house and grounds are open not only to residents but to all who wish to make use of them Afternoon tea is always served.

Tokyo

The Tokyo Association is busy preparing a pageant to be given for the Sunday School Convention; also a bazaar to be continuously open during the days of the convention, at which objects of interest and use to foreign visitors will be on sale.

The regular autumn work in clubs and classes has opened with new enthusiasm and the building is filled with girls at all hours.

Osaka

There is so much interest in the educational work that some classes have continued thru the summer in spite of the heat

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KWAI)

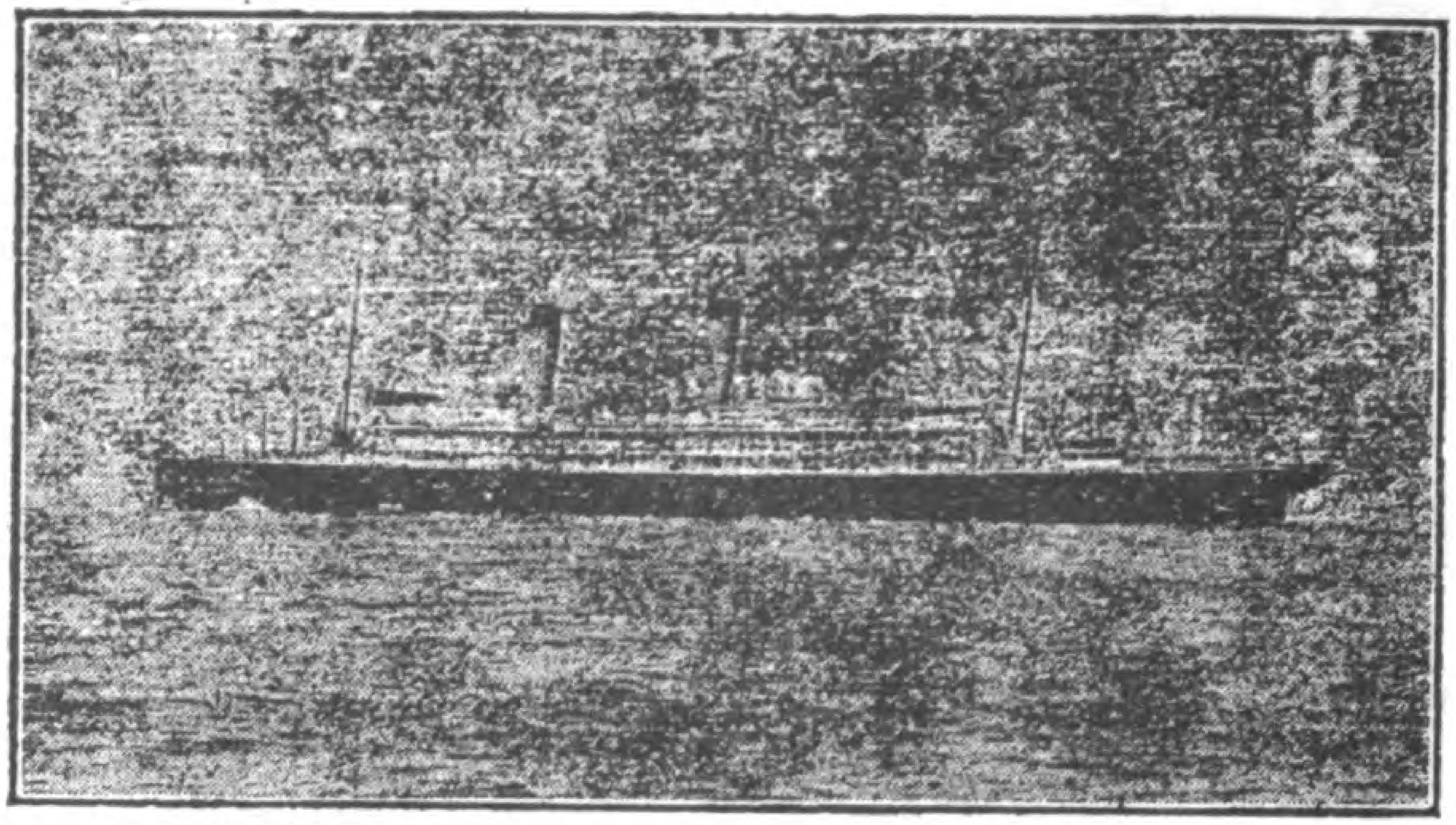
Volume 17 | October 1920 | Number 10.

National

The summer conference was held this year in Ferris Jo Gakko and Kyoritsu Jo Gakko in Yokohama, with a total attendance of 413. Twentyeight Associations were represented by regular members, committee members and secretaries, women of leisure, school teachers and students, business women. Girls from sixteen non-Christian schools were also present. During the conference days the girls became very much interested in owning their own conference grounds, a very real need in Japan, and all the Associations decided that during year they would give a concert or some other entertainment the proceeds of which shonld go to conference grounds. It is with great joy we learn that the girls at an American summer conference this past summer raised two thousand yen for our conference grounds.

Early in September all the secretaries of the Association in Japan gathered at Gotenba to discuss aims and plans for the winter's work, and spent three very helpful days in fellowship. Twenty-two Japanese secretaries and fifteen of our seventeen foreign secretaries were present. Besides these four Japanese secretaries are at present in America. On Sunday of the conference. Rev. Hannaford, whose wife was a former secretary in Japan, led communion service and preached for us. That afternoon Miss Helen Davis told us of the world's conference recently held in Switzerland, which she had attended with Miss Kawai.

東洋汽船株式會社



本社 … 一番地（丸ノ内 一五三一、一五三三…）

營業所 横濱市山下町五番（電話本局 四四〇〇、四四〇一 四四〇二、四四〇三番 四四〇四）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チャイナ、インシュランス、ビルヂング。マニラ、チャコビルヂング。桑港、マーケット街六二五、マーチャンツ、ナショナル、バンク、ビルヂング。紐育、ブロードウエイ、一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。）

北米航路（桑港、布哇ホノルル、、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候溫和、海上平穩なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双蝶旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
波斯丸		同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
靜洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

DAISEIYA HOTEL

Honcho 6 chome, Yokohama Japan,

Phone. 953,2813. Honkyoku

御歸朝並に御渡航上に就ては萬事丁寧親切に御取扱申上候、尚御歸朝の際は無線電信にて御通知被下候はゞ御出迎可仕候

歐米各國汽船乘客貨物取扱所

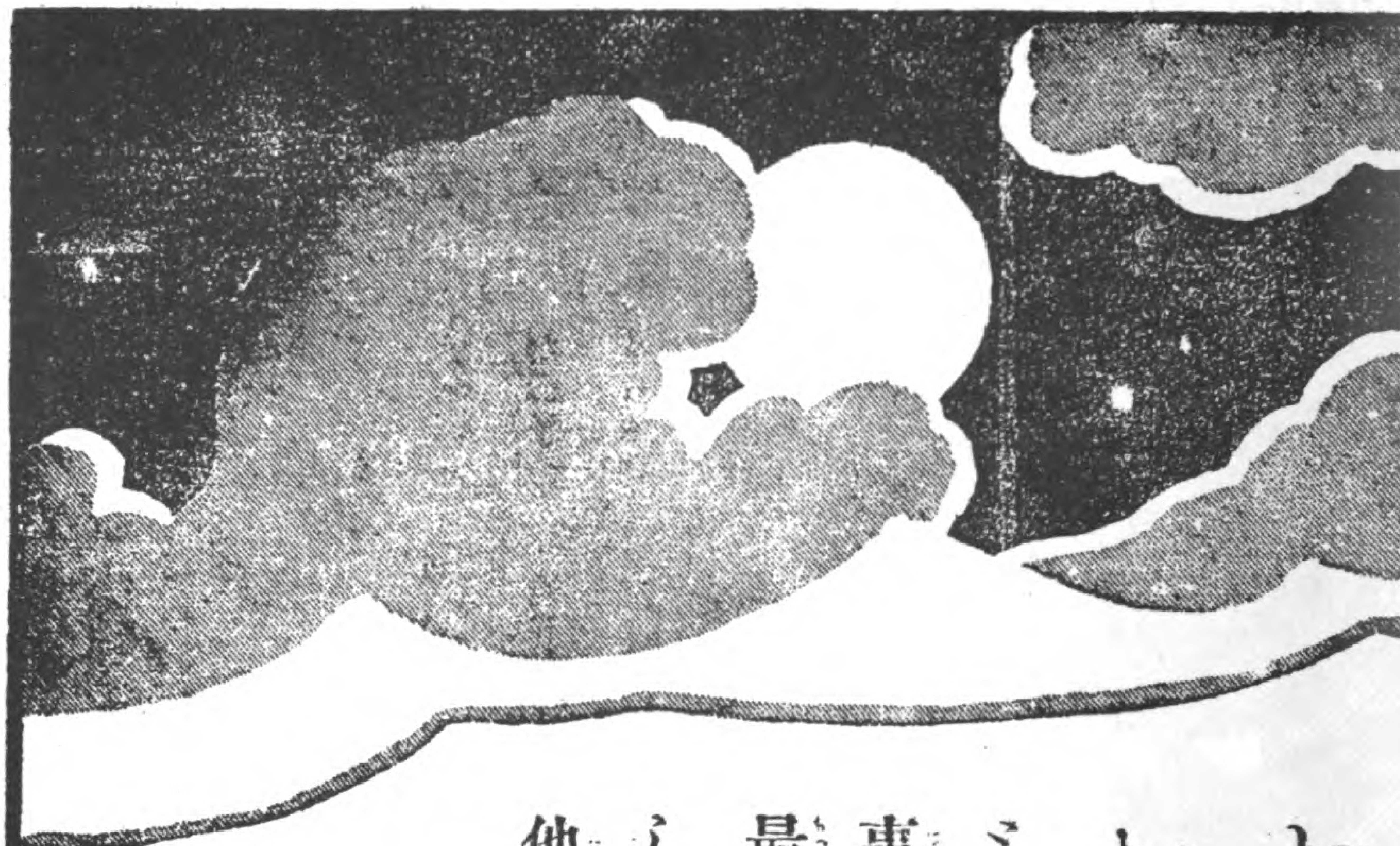
廣島縣海外協會指定旅館
熊本縣海外協會指定旅館

大勢屋旅館

横濱市本町六丁目（櫻木驛前）

電話本局 長 九五三 二八一三

弊館は最新式四層建築にして各室電話の設備を有し歐米視察御旅客並に御携帶品、貨物等の取扱には最も高評を博し居り候



女子青年界第拾七巻第十號（毎月一回一日發行）
大正九年九月廿六日印刷納本　大正九年十月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可